

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	(仮称)レジデンシャル武蔵ヶ丘	階数	地上8F	
建設地	熊本県熊本市北区武蔵ヶ丘4丁目14	構造	RC造	
用途地域	近隣商業地域、法22条地域	平均居住人員	280 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2018年8月 予定	評価の実施日	2017年6月10日	
敷地面積	3,366 m ²	作成者	河村由紀	
建築面積	978 m ²	確認日		
延床面積	5,990 m ²	確認者		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★★★★

100

50

0

0

50

100

環境品質 Q

環境負荷 L

S

A

B⁺

B⁻

C

3.0

1.5

BEE=1.0

0.5

52

1.3

38

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆☆

BEE = 1.3

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

排出率

69%

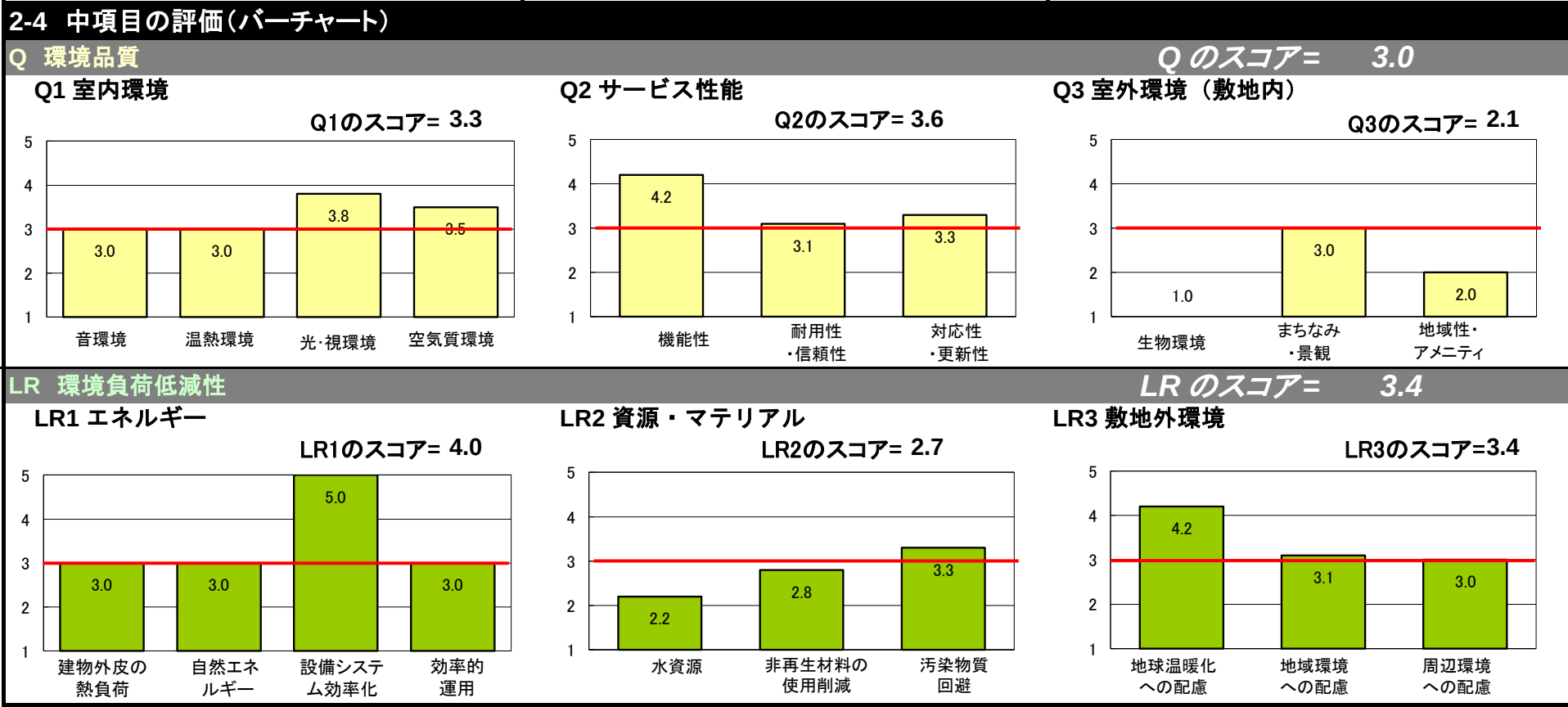
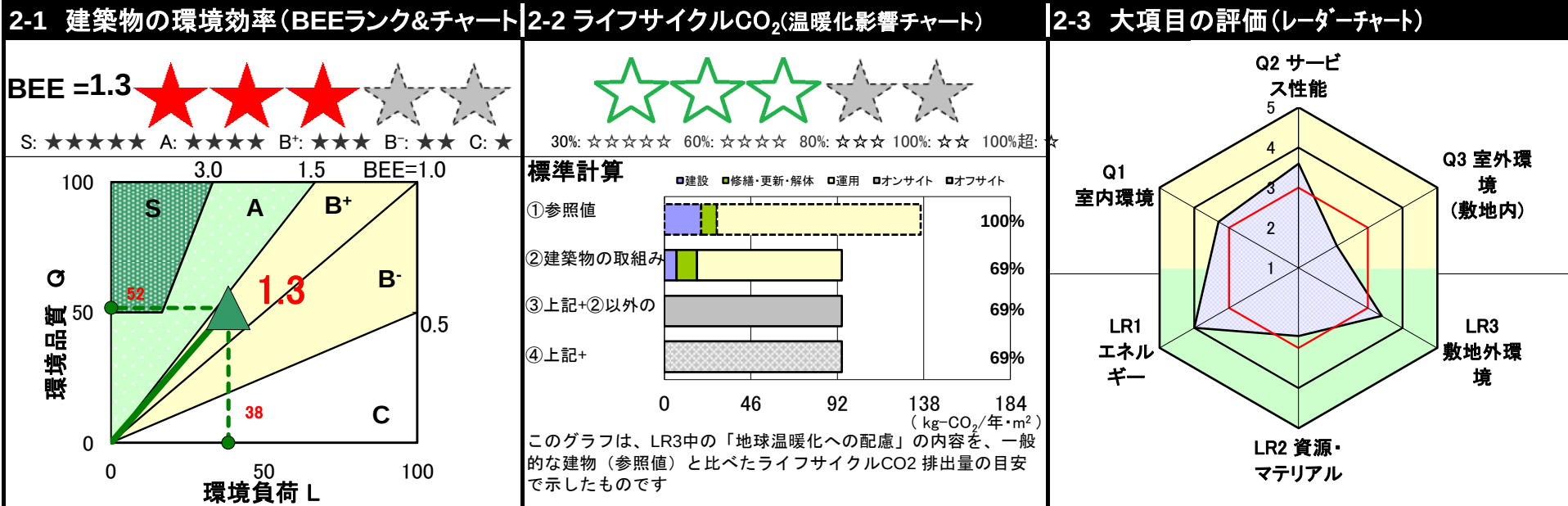
2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価			評価点
			76
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	評価点	■熊本県重点評価基準	
	90.9	判定値(評価点)	ランク表示
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	62.5	100点以上	
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	52.5	80点以上100点未満	
【重点事項4】 循環型社会の実現	81.9	60点以上80点未満	
		40点以上60点未満	
		40点未満	
※評価点は、100点以上が推奨です。			

CASBEE®熊本《新築》評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)レジデンシャル武蔵ヶ丘	階数	地上8F
建設地	熊本県熊本市北区武蔵ヶ丘4丁目1	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、法22条地域	平均居住人員	280 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年8月 予定	評価の実施日	2017年6月10日
敷地面積	3,366 m ²	作成者	河村由紀
建築面積	978 m ²	確認日	
延床面積	5,990 m ²	確認者	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版 (仮称)レジデンシャル武蔵ヶ丘			欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)				
スコアシート 実施設計段階									
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
					評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									3.0
Q1 室内環境						0.40		-	3.3
1 音環境					3.0	0.15	3.1	1.00	3.0
1.1 騒音			LL-45 LH-50を採用		3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音					3.0	0.50	3.2	0.50	
1 開口部遮音性能					3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能					3.0	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					3.0	-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音					3.0	-	3.0	-	
2 温熱環境					3.0	0.35	3.0	1.00	3.0
2.1 室温制御					3.0	1.00	3.0	1.00	
1 室温					-	-	-	-	
2 外皮性能					3.0	1.00	3.0	1.00	
3 ゾーン別制御性					3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御					-	-	-	-	
2.3 空調方式					-	-	-	-	
3 光・視環境					3.0	0.25	4.0	1.00	3.8
3.1 昼光利用			住宅部6.2%～9.5% ロビー4.2%		4.2	0.30	4.0	0.50	
1 昼光率					5.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口					-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備					3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策					2.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光制御					2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度					3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御					3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境					3.0	0.25	3.6	1.00	3.5
4.1 発生源対策			F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用		3.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質					3.0	1.00	4.0	1.00	
2 アスベスト対策					-	-	-	-	
4.2 換気					3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量					3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能					3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理					-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視					3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御					3.0	-	-	-	
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	3.6
1 機能性					3.0	0.40	4.4	1.00	4.2
1.1 機能性・使いやすさ			各住戸に1ギガビットのインターネット環境を整備		3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性					3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応					3.0	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画					3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					3.0	0.30	3.5	0.40	
1 広さ感・景観					3.0	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース					3.0	-	-	-	
3 内装計画					3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理					3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計					3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務					-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性					3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震			住宅性能表示 等級3		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性					3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能					3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.6	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数					5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔					2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔					3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			給水管 H1VP 給湯管 架橋ポリエチレン管 排水管 VP		5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-		
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-		
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-		
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-		
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-		
	3 対応性・更新性			2.8	0.30	3.4	1.00	3.3	
3.1 空間のゆとり	1	階高のゆとり	階高3.01m	3.0	-	5.0	0.60		
	2	空間の形状・自由さ		3.0	-	2.0	0.40		
	3.2 荷重のゆとり			3.0	-	3.0	0.50		
	3.3 設備の更新性			2.8	1.00	-	-		
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-		
	2	給排水管の更新性		2.0	0.20	-	-		
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-		
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-		
	Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-		2.1
	1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-		1.0
	2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-		3.0
	3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-		2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-			
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-			
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4		
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0		
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	0.20	-	-	3.0		
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0		
3 設備システムの高効率化			5.0	0.50	-	-	5.0		
集合住宅以外の評価(3a.3b)			1.0	-	-	-			
集合住宅の評価(3c)			BEI 共用部0.58 住宅部0.86	5.0	1.00	-	-		
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0		
集合住宅以外の評価			-	-	-	-			
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-			
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-			
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-			
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-			
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-			
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.7		
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2		
1.1 節水			1.0	0.40	-	-			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-			
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-			
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-			
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8		
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-			
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-			
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3		
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有害物質を含まない接着剤、防腐剤を使用	4.0	0.30	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-			
1 消火剤			-	-	-	-			
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-			
3 冷媒			3.0	0.50	-	-			
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4		
1 地球温暖化への配慮			積極的な省エネルギー対策	4.2	0.33	-	-	4.2	
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1		
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-			
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-			
1 雨水排水負荷低減			-	-	-	-			
2 污水处理負荷抑制			-	-	-	-			
3 交通負荷抑制			200%の駐輪場、120%の駐車場を確保 車の出入り口を分散	4.0	0.50	-	-		
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.50	-	-			
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0		
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-			
1 騒音			3.0	1.00	-	-			
2 振動			-	-	-	-			
3 悪臭			-	-	-	-			
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-			
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-			
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-			
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-			
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-			
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-			

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

空気住環境、機能的な空間作り、敷地内環境、省エネルギー、敷地外環境への配慮にそれぞれ取り組んでおり、低炭素社会の実現に努めている。

Q1 室内環境

全戸サッシは複層ガラスを使用、外額壁は断熱材を吹付けた防露壁とした。またシックハウス対策はF☆☆☆☆材料を採用した。

Q2 サービス性能

共用廊下・住戸内床は段差をなくし、バリアフリーに対処した。

Q3 室外環境（敷地内）

建物周辺に空地を設け、採光・通風を確保した。

LR1 エネルギー

共用部照明は、タイムスケジュール制御とし、共用部・住戸内共、主要な照明はLED照明を採用、給湯器はエコキュートを採用した。

LR2 資源・マテリアル

流し台等の水栓は節湯型とし、便器は節水型とした。

LR3 敷地外環境

前面道路沿いに植栽帯を設け、緑豊かな通りとなるようにした。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)レジデンシャル武蔵ヶ丘

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		76
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				90.9	0.40	36.36
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.7	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				62.5	0.20	12.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				52.5	0.20	10.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	1.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				81.9	0.20	16.38
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.6	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数